

第5回 花背トレイルラン 2018 参戦記

竹村 直太



初めて花背トレイル（Aコース25キロ）に参加させていただきました。今回は9月の台風21号の影響で、開催自体が危ぶまれましたが、宿院さんをはじめ、多くの方の手によってコース整備が行われ（自分は整備に参加できませんでした。すみません！）、無事開催されました。皆さんのそんな努力もあってか大会当日は見事な秋晴れで、楽しく、気持ちよく走れたことをこの場を持ってお礼を言いたいと思います。

○大会の雰囲気

花背トレイルランは大会として、とてもローカルで温かみを感じられました。自分は当日の朝に受付をしたのですが、前日に大会会場の交流の森に宿泊し、そのまま参加できるとい

うのも魅力的です。受付の雰囲気を見ていると、前から知り合いだった人はもちろん、そこで初めて会った人も、みんなでわいわいしているように感じました。会場の大きさも狭すぎることなく、広すぎることなく、みんなが交流を持ちやすい規模で、まさに交流の森という名前ぴったりだと思いました。

スタート前はみんなで写真を撮り、ゴールする時には名前を呼んでもらえ、温かい拍手で迎えられて、思わず笑顔になりました。そして美味しいごった汁と気持ちいい温泉を堪能しました。制限時間ギリギリで戻ってこられたランナーをスタッフみんなで迎える感じもすごくよかったです。まるで花道のような感じでした。

○レースについて

今回の目標は「優勝すること、タイムは2時間20分を切ること」としました。今年からトレイルランを始めて、今までの大会ではタイムも結果も特にこだわらず、できればいい結果出したいなーという軽い気持ちで出ていたので、今回スタート前から優勝を狙うトレイルランは初めてで緊張しました。

レース当日、宿院さんから前回優勝者の伊藤さんが出られなくなったと聞いて、ホッとしたような、勝負する人がいなくなってしまったような複雑な気持ちでした。また、コースレコードの西村さんもエントリーしていなかったため、着いていけばいいという考えはできなくなってしまいました。とりあえず一人で飛ばす計画に変更です。

結果は2時間21分で優勝でき、無事任務は果たせました。ですが、途中で潰れていたらプレッシャーのあまり、そのまま花背の森に逃亡し、森の妖精にはなれず、森の亡霊と化していたでしょう。

○レースの内容について

スタートしてシガウマラの井久保さんに声をかけられ、しばらく一緒に走っていました。始めの登りは階段が続きますが、タイムも狙っていたので、そこそこのペースで行きました。そこで後続の人と差ができたので、林道からのシングルトラッ



クは自分のペースでたんと進みます。

そして第1エイド手前の急な下りを下りきった時に200m後ろに井久保さんの姿があり、正直かなり焦りました。エイドで少し何か食べようと思っていたのですが、突き放して諦めさせたいと思い、エイドではポカリを一杯だけもらって早々に出発。そこからは走れるということを試走でわかっていたので、飛ばし気味で走りました。

また10キロ通過を1時間以内と思っていたのですが、1分ほど遅く入ってしまったので、ペースを上げないと2時間半も切れないという考えもありました。そのおかげもあり、後から聞いたのですがジワジワと差を広げることができ、無事優勝することができました。

タイムは20分を切りたいと思っていたので、少し残念ですがそれ以上に嬉しかったです。やっとトレイルランでペースやコースを意識して走ることができました。

ゴールする瞬間、皆さんの顔が見えた時はもう、きつかったとかいう感情は一切忘れて、ただただ嬉しい気持ちでいっぱいになり、笑顔でテープを切ることができました。

○最後に

コースは皆さんのおかげで、気持ちよく走れ、1.2回止まりましたが、ロストすることはありませんでした。トレイル自体も始めを登りきってしまえば、かなり気持ちよく走れるコースで、自分の好きなシングルトラックもあり、トレイルレースの面白さがギュッと詰まった25キロだと思います。

ほんとに素敵な大会でした。これからもこの大会が続いていけるように自分も関わっていきたいです。

1週間後の打ち上げでは、当日忍者トレイルランで入賞したこともあり、ダブルでお祝いしてもらいました。KTCに入って、初めての飲み会で色々な方とお話ができ、さらに二次会にも参加させてもらい、とても楽しかったです。

今回、コース整備や片付けなどの手伝いができず、走らせてもらうだけでしたので、次の機会にお手伝いをしたいです。

スタッフの皆さんありがとうございました。

